



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：GCC 自由貿易協定（EU と GCC との FTA 動向）（25 日付 National 紙）

6月25日付、英国 National 紙は、「GCC's free trade with EU sticks over Saudi export tariff」との見出しで GCC と欧州連合の自由貿易協定の進捗を報じている。

1. 関係者は GCC と欧州連合の自由貿易協定については 20 年以上の時を費やし、2000 ページの協定案のうち、解釈の隔たり範囲が数行にまで狭まっていると述べた。
2. 現在の問題は湾岸諸国が自国の製品に輸出税を賦課する権利を維持することを欧州連合が認めるかどうかという点に集約されている。
3. 湾岸諸国はこの輸出税を使うということで石油化学製品の世界価格に影響力を残したいと考えているとワシントンのピーターソン国際経済研究所のマーカスノーランド局長補は述べた。
4. サウジアラビアから輸出される安価な石油化学製品は、同国政府が実施している各種補助金に裏付けられており、これをそのまま海外に販売することは補助金の国外移転となることから、これを取り戻すために輸出税を賦課したいという思惑がある。
5. マーカスノーランド局長補はサウジアラビアには国内の清算書を律し、過剰生産をさせない政策が必要であり、石油化学の場合には補助金が国外へ移転しないような輸出税の適用を行いたく、同氏の印象ではこの点サウジアラビアが WTO に加入するときに欧州連合が同国の世界最大の石油供給者としての立場を除去したいと考えていたものと同様であり、現在の湾岸諸国との議論の焦点になってきているようであると述べる一方で、この点については欧州連合が石油化学製品の生産者でもあり、消費者でもあるという立場から、徐々に妥協を図るであろうと述べた。
6. 湾岸諸国側はこの問題を欧州連合が真剣に考えていないと考えており、欧州連合側は各種交渉を欧州連合というブロックで行っているためであると語った。
7. アッティーヤ GCC 事務局長は先週ベルギー・ブリュッセルで開催された GCC と欧州連合の定例会合で、相談を継続するという合意したように、2009 年 4 月のオマーンでの交渉以降、正式な協議には入れていないと述べた。また、両諸国の関係者は進展しない双方の関係についてお互いに不満を持ちながら、合意のチャンスが今年あるいは来年にあるとは思えないと述べている。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799